



住みたくなるまち

南区

自治協議会だより

平成27年12月6日発行 第4号

区自治協議会は、区民の皆さんと行政との「協働の要」となるよう、区民の身近なまちづくりや地域課題の解決のため、多様な意見の調整や取りまとめを行っています。活動内容などについて、区民の皆さんに随時お知らせします。

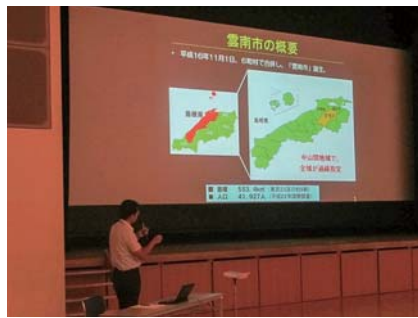
平成27年度新潟市区自治協議会 委員研修会の報告

南区自治協議会副会長 田村 義三郎

9月3日開催の新潟市自治協議会委員研修会の講演会に参加しました。

講師は、島根県雲南市の板持周治氏で、当日の演題は「小規模多機能自治の必要性」でした。雲南市は、平成16年に合併し、人口4万人、山間地の550平方キロメートルで東京23区の9割くらいという、面積が広く人口密度が低い地域です。合併の際に住民自治の仕組みをしっかりと構築しようとして「自分たちが住む地域は、自分たちが知恵を出して汗をかきながら、みんなで作り上げていくこと」を掲げて地域自主組織を作り、これからの時代は、協働を基本に、「まちづくりの原点は市民の皆様です」と呼びかけたそうです。組織は200～6,000人位で平均で1,350人位の小学校区単位で編成されています。部会制をとって、事務局体制の強化に努めています。小規模ながらも、様々な機能を持った住民自治の仕組みです。

活動例として、水道メーター検針で声掛けなど、15事例を紹介されました。



行政に頼らず、議論しながら良い方向を見出して、行政から財政的に支援をもらい、地域・地区の活性化を図るといふ、安心安全な住み良い地域づくりのための大変有意義な研修会であったと思います。

第2部会活動報告

11月は南区「家族ふれ愛月間」 区民の皆様、ご存知でしょうか？

第2部会長 西村 徹

私たち自治協議会第2部会は、家族のつながりを大切に、温かい家族をつくるために、4年前からこの活動を実施しております。

今年度は、「家族ふれ愛」絵画／川柳展のほか、映画上映会「うまれる」「うまれる ずっと、いっしょ。」を11月8日立冬の日在白根学習館で開催致しました。小雨降る中、多くのお客様をお迎えできたことを大変うれしく思いました。

本作では、出産や子育て、人の死を題材に、実際その境遇に置かれた人々をドキュメンタリーで描いております。出演者は皆、様々な困難に遭遇します。自らが虐待を受けてきて、悩みながら親へと成長していく夫婦、出産前に我が子が難病とわかり、それを受け入れて育てていく夫婦など、当事者の家族はそれぞれ悩み、葛藤しながらその事実を前向きに受け止め生きてゆく姿は感銘を受けます。

私たちが日々忘れがちな「いのち」の大切さ、生きていることのありがたさ、家族の絆の大切さをあらためて感じる事ができました。

上映会にあたり、ご協力頂いたすべての皆様に感謝いたします。



第1部会活動報告

～外灯(防犯灯)の維持・管理のあり方～ ～区バスで巡る、みずつち号～

第1部会長 佐々木 彰治

外灯の維持管理については、外灯の設置・維持管理に当り「負担が大きく、自治会が苦慮している」とのご意見を、昨年度より継続検討を重ねてきました。第1部会での検討を基に自治協議会本会議の議論の結果、公共性・省エネの観点から市が防犯灯については、すべて負担すべきものと考えたことから、負担の軽減が図られるようLED防犯灯設置の補助率を3分の2から100%に改定すること等に意見集約され、区長に南区住民の意向として、尊重されるよう要望しました。

次に、区バスのPR目的で9月12日開催の「南区たからいち」に区バスクイズラリーとシャトルバスみずつち号を企画しました。水と土の芸術祭市民プロジェクトの会場を巡るみずつち号は、5便を運行し、白井地域で大風の和紙を使った、はりこの作製や文化財笹川邸、白根町屋の趣を存分に感じる周遊でした。



みずつち号(笹川邸前)

第3部会活動報告

「南区たからいち」の開催を終えて

第3部会長 市嶋 洋介

南区の物産をPRしようと開催した「南区たからいち」。当日は多くの方からご来場をいただきありがとうございました。また、ご多忙な中でこの度の趣旨にご賛同いただき出店を頂いた関係者の皆様にも心より御礼申し上げます。

私たち南区自治協議会第3部会は本年度、主に産業や観光、地域間の交流について課題を考え協議を重ねてきました。意見の中で特に共通していたことは、地元の人たちが活気に溢れ、盛り上げられる活動を通して交流を図る事業に取り組みたいということでした。そんな中でやってみよう!となったのが今回の事業です。

南区の特徴であるフルーツを使ったブドウの種飛ばしイベントは、子供から大人まで多くの世代が楽しめるように考えました。当日は種の飛ばし方も様々で、助走をつけて飛ばす人や、飛ばす角度を真剣に考えながらやっている人もいて会場を大いに盛り上げていただきました。結果、なんと優勝者は女性でした。フルーツのPRだけでなく、種飛ばしの意外な奥深さを感じさせられるイベントとなりました。そのほか、白根、味方、月潟の3地区からは、特色のある地域のグルメを出店いただきました。どれも工夫を凝らした商品となっており、見ても楽しく、食べておいしい南区のグルメを堪能いただけたのではないかと思います。最後に、長く受け継がれてきた地域文化の中で活気がある南区であり続けるために、今後も自分にできることを少しでも実践していきたいと思っております。



ブドウの種飛ばし